



日本プライマリ・ケア連合学会  
関東甲信越ブロック支部 活動報告

発行人：支部長 梶井 英治  
自治医科大学地域医療学センター

ニュースレター No. 4 (2013. 12)

## 1) 第2回日本プライマリ・ケア連合学会関東甲信越ブロック地方会を終えて

大会長 石橋幸滋

平成 25 年 12 月 8 日（日曜日）東京医科歯科大学 M&D タワー及び 3 号館において、第 2 回日本プライマリ・ケア連合学会関東甲信越ブロック地方会が開催された。（写真 1，2）テーマは「つなぐ」で、ベテランと若手、病院と診療所、多職種間の連携などを考えることを目的に、シンポジウムやワークショップが行われた。この地方会が、公益財団法人勇美記念財団の共催と、東京都医師会、東京都歯科医師会、東京都薬剤師会、東京都看護協会、東京都栄養士会、実地医家のための会の後援をもらい開催されたことは特筆すべきことである。



写真 1



写真 2

当日は晴天に恵まれ、関東甲信越各地から多くの先生方に参加いただいた。参加職種は医師（124名）、歯科医師（3名）、薬剤師（38名）、栄養士（16名）、医学生（5名）ケアマネージャーなど多岐に渡り、参加者数はシンポジストや講師を含め 218 名、それに指導医講習会参加者 80 名を加えて計約 300 名の方にご参集いただいた。これだけの方々にお集まりいただいたことに心から感謝したい。

運営に関しては不慣れな人間達が右往左往しながら行ったため、受付や単位配布などで手順が悪くご迷惑をおかけしたが、内容（表参照）は各プログラムの座長や講師、コーディネーターの皆様のおかげで、内容の濃い素晴らしい会が行えたと思っている。

プログラム 1「地域における糖尿病のケア」は、病院（貴田岡正史先生）、診療所（片山隆司先生）の医師と栄養士（西村一弘先生）をシンポジストに迎え、糖尿病における病診連携と多職種連携について西東京糖尿病研究会の活動を中心にお話いただいた（写真 3）。

プログラム 2 では、学会の地域包括ケア委員会の委員長でもある鈴木央先生に、在宅緩和ケアの実際について

て詳しくかつわかりやすくお話いただき、大変勉強になったという声をたくさんいただいた。

プログラム3は「認知症の地域ケア」というテーマで、認知症疾患医療センターでもある埼玉精神神経センターの丸木雄一先生と、長年東京都多摩地区で認知症ケアのシステムづくりに関わってきた新田國夫先生にご講演いただいた。お二人とも大変話が上手で、参加者も話に引き込まれていた(写真4)。

表. 地方会のプログラム

プログラム1	地域における糖尿病のケア
プログラム2	在宅緩和ケアの実際
プログラム3	認知症の地域ケア
プログラム4	乳児ケアの実際～事故予防からワクチンまで
プログラム5	ジェネラリストの未来 あなたの街で明日から実践!! "地域"でつなぐワールドカフェ ~Past,Present,Future~
プログラム6	医療機関・薬局・栄養ケアステーションの連携のための ワークショップ
プログラム7	リハビリテーション栄養・サルコペニアワークショップ
プログラム8	専門職連携教育IPE、専門職連携活動IPWワークショップ
プログラム9	地域包括ケアと多職種連携ワークショップ



写真3



写真4

プログラム4では、全く毛色が変わった「乳児ケアの実際～事故予防からワクチンまで」というテーマで、あかちゃんとかどものクリニックの田中秀朋先生、吉永小児科医院の吉永陽一郎先生にご講演いただいた。現在日本プライマリ・ケア連合学会子育て支援プロジェクトチームは、日本外来小児科学会と共同で携帯に自動的に育児支援のアドバイスを定期的にする子育てきずなメールを制作中であり、来年度より全国に配信する予定である。

プログラム5の「ジェネラリストの未来 あなたの街で明日から実践!!"地域"でつなぐワールドカフェ ~Past,Present,Future~」は、ベテランと若手、医師と他職種を結ぶための企画で、コーヒーを飲みながらグループワークを通して参加者が交流を深めた素晴らしい企画であった。このワークショップを主導していただいた東京医療センター宇井睦人先生、川崎セツルメント診療所遠井敬大先生、亀田メディカルセンター濱井綾乃先生に感謝申し上げます。

プログラム6は、薬剤師の坂口真弓先生がコーディネーターとなり「医療機関・薬局・栄養ケアステーショ

ンの連携のためのワークショップ」が行われた。ここでは医師と薬剤師、栄養士が地域で協働してくためにはどうすればよいかを具体的に考えるワークショップで、日本栄養士会の迫専務理事もコーディネーターとして参加され、これからの多職種協働について活発な意見交換が行われた。

プログラム7は、近年プライマリ・ケア領域で注目されている「リハビリテーション栄養・サルコペニア」のワークショップであったが、歯科の小玉剛先生がコーディネーターとなり、歯科の立場からのミニレクチャーも含め、参加された医師にとって新鮮かつ有意義なワークショップとなった。

プログラム8は、揖斐地域医療センター吉村学先生による「専門職連携教育 IPE、専門職連携活動 IPW ワークショップ」であるが、この分野では経験豊富や吉村先生のワークショップであり、全員が楽しんで参加していた姿が印象的であった。

プログラム9は、学会のグループ診療ワーキンググループが主催のワークショップで、地域包括ケアを進めるためのノウハウを「サザエさんの家庭」をモデルとしてグループワークを進めていく手法は、あおぞら診療所の川越正平先生らしい楽しくためになるワークショップであった (写真5)。



写真5

これらのプログラムに加え指導医講習会が行われたため、300人を超える人が会場に集まったことは大変うれしいことであった。惜しむらくは、後援をいただいた各組織からももう少し多くの参加者があって、大講堂がもう少し埋まって欲しかったが、今回医師以外の職種が300人中69人の参加で約2割を占めたことは、日本プライマリ・ケア連合学会地方会として意義のあることであり、来年度以降の関東甲信越ブロック地方会につなげていただければ幸いである。

## 2) 平成25年度第2回日本プライマリ・ケア連合学会関東甲信越ブロック支部議員総会が開催されました

地方会の会場内で平成 25 年度 2 回目となる関東甲信越ブロック支部議員総会も開催されました。31 名の議員が実際に来場し、79 名の議員が委任状を提出し、併せて計 110 名の出席をもって議員総会が成立しました。

議事は下記 5 点でした。

- (1) 各都県支部の現状報告
- (2) ブロック支部の会計状況の報告
- (3) 各都県支部の活動に対する支援策について
- (4) 今後の地方会の幹事について
- (5) 来年度の都県支部横断的な活動について

(1)各都県支部の現状報告では、各都県支部の関係者から最近の活動について報告がありました。多職種による研究会・研修会の開催等を熱心に行っている都県から、全都県での支部体制づくりが始まったばかりのところまで、都県によって程度は様々でしたが、いずれの都県でも支部活動が進捗している様子が伺えました。

(2)ブロック支部の会計状況の報告では、ブロック支部の事務局から現在の会計状況が報告されました。収支に関しては特に問題となる質問・意見等は出されませんでした。都県支部の基礎的活動費について、申請 (**振込み口座番号の連絡のみ**) をしている都県がまだ少ないことが再度報告され、是非年度内に申請するよう連絡がありました。

(3)各都県支部の活動に対する支援策については、これから支部活動を始めるに当たり、支部組織のあり方や、予算の組み方等基本的事項について再確認する質疑が行われた他、活動を充実させるために会員名簿を活用したいという意見も出されました。

(4)今後の地方会の幹事については、今年度東京都、来年度神奈川県が担当し、再来年度以降は未定となっている地方会の幹事について、その開催地と併せて、決定方法について議論が行われました。幹事については順に持ち回りで行うという意見も多く出されましたが、まだ支部組織が立ち上がって間もない都県では幹事を担うのが難しいという意見もあり、出来るところからその都度手挙げ方式がよいという意見も出され、まとまりませんでした。会場についても、地方で行うと参加しにくい、多人数を収容できる施設が少ない等の理由で、幹事とは別に東京都で開催するという意見も出されましたが、こちらの議論も持ち越しとなりました。平成 27 年度の地方会幹事について、手挙げ方式で募りましたが、立候補はありませんでした。

(5)来年度の都県支部横断的な活動については、まずは都県横断的な活動は 5 月の議員総会までに申請をして頂き、議員総会で承認を得てもらう必要がある旨が再度説明されました。都県横断的な活動を促進するための制度で、予算には比較的融通が効くとのことですが、本年度は申請がなかったため、是非来年度に向けて計画を練って欲しい旨が伝えられ、詳細についていくつかの質疑が行われました。

全体で 1 時間弱と短い時間ではありましたが、各都県支部活動を充実させ、また、関東甲信越ブロック支部の活動を充実させようという議員の方々の熱気で、多くの意見が交換された議員総会となりました。今回は意見交換が中心で決定事項はありませんでした。今回持ち越しとなった議案については次回議論される予定です。次回は 2014 年 5 月の日本プライマリ・ケア連合学会学術集会にあわせて議員総会が開催される予定です。

#### =関東甲信越ブロック支部からのご連絡=

ニュースレターでは関東甲信越ブロックの各都県支部の活動を広くお伝えしたいと考えています。各都県支部の研究会等の活動の告知や報告にご利用下さい。掲載を希望される方は、名称、日時、会場、内容、連絡先等を事務局までメール (pckk@jichi.ac.jp) でご連絡下さい。学会及び支部の精神に則り、会員に役立つ会合の情報提供をよろしくお願いいたします。皆様からのご意見やご提案をお待ちしております！